

肛門ガツパの親分

第2話



文 佐々岡健次

前回のお話しは…

美又温泉国民保養センター横の展示場で、お客さんに「肛門ガツパ」の説明をしながら、「親分は何処に住んでいたのだろう？」と私は常々思っていた。そんなある日、「わしゃあ、知つとるでえ〜」と云う兄さんが現れた…というところでした。では、続きをどうぞ！

さらに…

急いで外の自動販売機でコーヒーを買って来て兄さんの前に置いた。兄さんは、「あんたは、この親分が何処に居たか知つとりんさるだろうが、わしの持っている土地に親分の墓があって、そこに居たんだよ。」と云う。

ええ〜!?

エ〜〜ッ、墓まである！私はびっくりこいて大声になった。展示場には私の絵を見に来ている人も居たが、私はその人をほったらかしにしてその話をじっくり聞く事にした。

どこに…

その場所は、わしの父親の田んぼがあった所でな…。「それは、ど…どこです!？」と身を乗りだし私の鼻息も荒くなった所で、兄さんが「あ〜わしゃあ甘いのしか飲まんのだかのオ」と云うので急いで外に出て「甘いコーヒー」を買って来て兄さんの前に置いた。

どこに!!

兄さんは、ゆっくりそれを飲み始めて「新生入口」と云う所でなあ。とにかく車で案内すらあと、そこに行くことに決まった。



次回は…

大興奮の私は、兄さんと一緒に親分の墓へ…。次回を、お楽しみに！



教子ウィムセット家、 男子の散髪事情

文・写真 教子ウィムセット



皆さま、こんにちは。今日は、我が家ではごく当たり前のことですが、ほかのお宅で話すとびっくりされることをご紹介します。

実は、我が家の長男14歳と次男12歳は今までの人生で一度も散髪屋さんや美容院へ行ったことがないのです。

夫は、息子たちが4か月くらいの頃からずっと髪を切り続けており、なんと彼らの専属美容師をしているのです。



ジャマイカ4か月↑初めての散髪

夫は会社勤めですから、もちろん美容師の資格は持っていません。ただ、若い頃から彼自身の髪を切る習慣を身につけており、大学時代は寮で友達のを切っていた経験もあるらしく、慣れた手さばきで息子たちの髪を整え続けています。

しかし、彼らもお年頃ですし、カリスマ美容師に切ってもらいたいのでは？と考えた夫は、そろそろ美容院か散髪屋へ行った方が良くないかな？と2人に提案したそうですが、お父さんのほうが良いから、自分たちは散髪屋

には行かないと断ったそうです。母としては、たまにはプロの人に流行りのスタイルにしてもらったらいいのに…と思うのですが。

昔は、息子たちが希望したモヒカン刈りにして学校へ行ったこともありましたが、頭の横にイニシャルの文字を入れたこともありましたが、子どもたちが髪を剃り上げても、髪を染めても何も言われない、アメリカはかなり自由な校則がありますので、夫は息子たちのヘアアレンジを楽しんでいた時代もありました。

日本へ行く前も夫が
綺麗に散髪しました



パリスはいつも不満顔

夫の散髪屋さん…長男は夫と相談しながら髪型を決めますが、次男は切った髪が目に入って痛い〜っ！痒い〜っ！と毎回不満げな顔をして切ってもらっています。が…いったい何歳まで続くのでしょうか？見ものですよね！（ちなみに、私は定期的に美容院へ行っています）